

Title	序
Sub Title	
Author	伊東, 乾(Itō, Susumu)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1970
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.43, No.10 (1970. 10) ,p.5- 5
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	潮田江次先生追悼論文集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19701015--005

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

潮田江次先生が亡くなられたのは、昨昭和四四年五月九日のことであつた。それが僅か十数箇月以前に過ぎないとは、現在の私どもの到底信じ難い想いである。それほど先生の存在は大きかつたし、また、それほど多くのことがその後の大学と学部とを見舞つた。

寡黙な先生は、何を指示し、何を叱咤せられたのでもなかつたけれども、おいで下さるといふことだけが、どのような席でも、私どもにとつて、いつも最大の安心であつた。巨星墜ちて心を安んずるすべのなくなつた歿後の一年が、遺された者にとつて、長い辛い時間であつたことは、或いは当然のことなのであろう。思うに、その寡黙は、自身に對して余りにも厳しすぎた先生の、その余り他に對しては逆らざるをえなかつた寛恕の光芒に違ひなかつた。さればこそ先生の身辺は澄んで明るく暖く、人を包んで心を安んぜしめたのであつた。実は内敵外寛の先生のこの姿勢こそ、慶應義塾の真髓と認められる。他に冷厳にして自分には甘い倒錯の俗流の、愈々滔々として世を洗う最中に、私どもは、突如、生きた慶應義塾を奪い去られたに他ならぬ。

星を喪い、柱を失つて、大学と学部とは、勿論、当面の諸事に難渋を極めた。追悼論文集の刊行が遅れたのも、そのためであつた。けれども、先生の後輩子弟は、先生への思慕に心を燃し、多事の時期に力を尽くした。

こうして、今、小冊ながら心をこめた論文集が上梓される。在天の潮田先生の御霊の、願わくは、私どもの微志を諒とせられんことを。

昭和四五年九月

伊 東 乾